

報告されている。

- ・ 3月17日午後3時頃、南ジャカルタのシマトパンにおいてパンク盗が発生、KITAS、免許証、現金等の貴重品が奪われた。
- ・ 3月18日午後1時、ブカシ県で車両を駐車中に鍵を壊されて中に置いてあった鞆から貴重品が盗まれた。

邦人の皆様におかれては、人目に付く場所に貴重品を置かない等、ご注意ください。

(2) 5月1日のメーデーにつき、昨年から同日は祝日となっているが、メーデーの前後1週間は毎年労働組合による数万人もの大規模なデモが発生しており、今年もその可能性が高いと予想される。去年は、HI、大統領宮殿、国会、労働移住省等においてデモが行われた。万が一デモに遭遇した場合は速やかにその場を立ち去るようお願いする。又、デモに関する情報があれば、大使館にご連絡願いたい。大使館からも随時情報発信いたしたい。

3. 最新の医療事情等

(1) 鳥インフルエンザの陽性例が3月31日に2件タンゲランで発生した。親子での感染例であったが、人から人への感染ではないものと判明。これまでの199の発症例中167例において死亡が報告されており、本年の死亡例は上記2例となっている。

(2) 現在バリにおいて1日120例近くイヌに噛まれる事例が発生している。噛まれた後に適切に狂犬病のワクチン接種を受ければ問題ないが、3月までに既に3名の死亡例が報告されている。狂犬病の被害は2009年の28例から2010年に82例まで急増しており、その後2013年には1例、2014年には2例と鎮静化したものの、本年は現時点で既に3例が報告されており、注意が必要。バリへ渡航の際には野犬に注意していただきたい。

(3) バリ島においてデング熱が流行している由。在留邦人の感染例はないが、ご注意願いたい。

4. 質疑応答、各社（団体）からの報告等

（報告・質問）

外国企業の外国人就労者に対する規制がにわかにならなきてきていると感じている。先般、自社で運営している工業団地のテナント企業に査察団が現れ、社員がパスポート原本の提示を求められたが、コピーしか携帯していなかったために連行され、2,500万ルピアの罰金を要求された由。罰金は1,500万ルピアに減額可との情報もあり、現在事実関係を確認中。

出入国管理総局のVTTを発給するオンラインシステムが4月6日から新しく導入され、企業が右システムを通じてビザ申請すると企業への実地検証が行われる模様。実地検証時、外国人証明書類の提示や面談が行われるとも聞いている。今後予告なしで訪問する可能性もある由。査察団にパスポートは原本を携帯するように言われたため、職員に対し原本を携帯するよう徹底している。オンラインシステムでの申請後1-2週間ほどで検査に来るらしいので、少なくともこの期間はパスポート原本の携帯を勧めている。以前同協議会の場で、国家警察からの情報として、外国人が普段携帯するものはパスポートコピーで良いが、KITASは原本を携帯するようにとの事であったと記憶している。警察、出入国管理総局、労働移住省の見解が一致していないように思われるが、皆様の対応等をお聞きしたい。

（回答）

国家警察に確認した際にはパスポートのコピーを携行することで問題ないとのことであったが、現実には制服を着た警察を名乗る人物が原本の提示を求め、不所持の場合に罰金を要求するケースも報告されている。労働移住省や出入国管理総局の対応がまちまちであることも事実であり、改めて確認を行い、新たな情報等あれば共有いたしたい。

(報告)

出入国管理総局による実地検査があったが、その際、社員についてはパスポートがなくてもKITASのオリジナルが提示できれば問題なかった。短期出張者でパスポートを携行していない者は30分ほど尋問を受けた。出張者についてはパスポートを携行した方が良いものと思われる。

(質問)

今後VOAが廃止される可能性があるかと聞いた。商談目的で来訪する出張者は今後ビザなし入国が可能となるのか。

(回答)

3月のジョコウィ大統領訪日時に行われた日インドネシア首脳会談においても、日本人に対する査証免除に係る言及があった。右につき関係当局に確認を行っているが、現時点で確定的な情報はまだ入っていない。

(回答) JCC

JCCの労働問題委員会より本件について出入国管理総局に照会している。昨年10月に法務人権大臣令第27号が発令され、この中にVOAが免除された場合どこまでの範囲の活動が出来るかということが記載されている。基本的にはVOAの取得をした際と同じ活動ができるとの回答であったが、最終的なコンファームはできていない。別途、労働省へも確認を取る必要があるが、基本的にはVOAと同じ活動範囲が許可されているものと理解している。

(報告) JJS

日本人学校は4月14日が入学式、15日が始業式 幼稚部は15日が入園式となっている。約1,230名となり昨年よりも多い人数での年度開始となる。教員は小中学部22名、幼稚部3名、事務長も交代となり、総数26名となった。教員全員が予定通り既にジャカルタに到着している。春休み中にセコム社から学校を点検頂き安全に関するご意見を頂戴した。子供の安全最優先で本年度も頑張る所存。

(報告) JJC

4月に新しく赴任される方、又役職変更等に伴うワークパーミット更新のため一旦出国し再入国される方が増えていると承知しているが、入国時のパスポートコントロールでのトラブルの報告が何件か入っている。一方出入国管理総局の査証発行システムが始動して間もないこともあり手続きが遅れており、就労許可の発給手続きもオンライン化されたもののまだ安定していない状況で、ビザ・ワークパーミットの取得プロセスがスムーズでない由。ビザインデックス312を取得せずに入国をしなければならないケースがあるようで、これが右トラブルの背景にあるものと思料される。事例として、ビザ・ワークパーミットをEPOしてVOAで再入国を試みた邦人がパスポートコン

トロールで質問攻めにあい、別室で2,000万ルピアの賄賂支払いを要求され、最終的に所持金200万ルピアを支払い解放されたと報告を受けている。3月中旬から入国カードの記入義務が免除されたことも、パスポートコントロールでの審査厳格化に影響している由。当地で就労されている赴任者の中には職変更などで延長が効かない方もおり、ビザ・ワークパーミットの更新のスケジュールが遅れる一方、KITASの期限が迫る中でオーバーステイを回避するためやむなく出国し、VOAで入国せざるを得ないという事情も、このような問題を引き起こしているものと思われる。

次回、海外邦人安全対策連絡協議会は、2015年5月12日（火）午前11時から。

安全に関する参考情報 (現地報道ぶり2015年2月)

1. 強盗・傷害事件

・2月23日午前5時頃、中央ジャカルタ Senen の陸橋を20代女性がバイクで走行していたところ、バイク二人乗りの男が女性に接近し、無理矢理路肩に停車させた。男らは女性に刃物を突きつけ、財布、携帯電話及び乗車していたバイクを引き渡すよう脅した。女性は所持品とバイクを男らに引き渡し、その後付近の警察に通報した。現場はジャカルタ市街中心部であり、日中は交通量も多く、警官による警備・監視も常時行われているエリアだが、事件発生時は早朝で交通量が少なく、警備も手薄になっていた。警察は被害者の証言を基に犯人の特定を急いでいる。

・2月23日午前9時半頃、東ジャカルタ Ciracas の Taruna Jaya 通りにて、30歳男性が送金のため約2億5000万ルピアの現金が入ったナップサックを携えてバイクで付近のBCA銀行に向かっていたところ、突然男4人（2人乗りのバイク2台）が男性に接近し、うち1人が男性の左腹部に発砲し、別の男が日本刀のようなもので男性の頭部と手を切り付けた。その後男らは被害者男性のナップサックを奪い逃走した。男性はその後病院に搬送された。命に別状はないものの、重傷を負い入院中。警察が犯人の行方を追っている。

・2月23日午前10時過ぎ、西ジャカルタ Duri Kosambi、Kresek Raya 通りにて、バイクに乗った男2人が路上駐車されていた自動車の窓ガラスを割り、車内に放置されていたカメラ、ノートパソコンの入った鞆を盗もうとした。付近住民らがこれを見つけ犯人らを取り押さえ、制裁として殴る蹴る等の暴行を加えた。被害者男性はガルーダ航空のパイロットであり、事件発生時付近の屋台で食事をしていた。

・2月25日、タンゲランで複数回空き巣の犯行に及んだ30代の男2人が中部ジャワ州スマランの潜伏先で逮捕された。潜伏先では空き巣時に窓や玄関を破壊するために使用されたとみられる道具が見つかり、証拠品として押収された。容疑者は計4回空き巣を働いたものと見られ、被害総額は最低1億3500万ルピア。

・2月26日夕刻、南ジャカルタ Fatmawati 通りにて、路上を歩いていた高校生3人がバイクに乗った男2人に鎌で襲われ、手首等を負傷した。現地警察が捜査を進めているが、犯人、動機共に不明。

・ 2月27日午後4時頃、西ボゴール Curug Mekar の Mandiri 銀行 ATMにて女性が現金を引きおろしていたところ、ATM機からキャッシュカードが出てこなくなり、男2人が女性を助けるふりをしてATM内に侵入し、現金100万ルピアを引き渡すよう脅した。男らは現金を奪った後自動車で逃走した。現在警察が犯人の行方を追っている。

2. 傷害・殺人事件

・ 2月24日午前1時頃、南タンゲラン Pondok Aren にて男女がバイクで走行していたところ、2人乗りのバイク2台（男4人）に追跡され、うち1人に日本刀のようなものを突き付けられ停車するよう脅された。しかし被害者女性が凶器を奪うことに成功し、男がバイクから転倒したため、その隙に女性の叫び声を聞きつけた周辺住民らが男らを包囲した。男3人は逃走したものの、残されたバイクから転倒した男は住民らに捕まり、暴行を受け、生きたまま火を放たれ死亡した。警察は目撃者の情報を基に捜査を進めている。